



新年の御挨拶

医学図書館長 神田 芳郎

新年明けましておめでとうございます。

昨年は図書館のカウンターの改築が行なわれ開放的で明るい雰囲気になりました。さらに3年前から推進してきた図書館のIT化もひとまず完成に近づき、学術誌の電子ジャーナル化や文献検索用のデータベースも充実してきました。図書館IT化のハード面はほぼ整備が完了したのではないかと思います。今後はこれらの充実したハードをいかに有効に使いこすかを目的としたソフト面の充実が必要であると思います。そのためには各種データベースの周知と講習会などによる利用の促進を図ってゆきたいと考えています。また既存図書の検索も容易にできるシステムの導入も必要であると思います。さらにこれからは情報を収集するだけでなく、幅広く情報を発信できる図書館を目指すべきだと思います。

一方で現在最も大きな問題は大手国際出版社発行の学術誌価格の高騰です。電子ジャーナル化によっても解決には至らず、むしろオンライン化は多くのユーザーが利用しやすい反面かえってコスト面では学術雑誌の高騰を招き、このままでは新しい雑誌の購入どころか現状を維持することすら困難な状況になってきております。学術誌は多くの研究者の投稿により成り立っておりますが、雑誌の高騰により学術誌の購入が継続できない状態になりますとその研究論文を、学術誌を支えている研究自身が購読できないという矛盾に陥ってしまいます。このような状況のなか現在数は少ないのですが無料閲覧が可能なオープンアクセスの学術誌も発刊されてきました。また多くの研究機関がその知的生産物を電子的形態で集積し保存・公開するために設置する電子アーカイブシステム（機関リポジトリ）を導入し始めています。久留米大学でもこのシステムの導入を検討すべき時期に来ているのではないかと思います。

また、本年度から利用状況のアンケート

ト調査を実施し利用の少ない雑誌は原則廃止し新たな学術誌購入を検討したいと思っております。廃止となった学術誌に関しては皆様方にはご不自由をおかけいたしますが相互貸借で対応していただきたいと思っております。現在文献検索も容易になり、また相互貸借もオンラインでおこなえるなど便利になっております。このようなシステムに関しましてもその存在と利用法を文献検索同様利用者講習会等で周知徹底してゆきたいと考えております。

これまでの改革による成果はあがってきてありますが、まだまだ図書館には問題が山積みです。どこかの知事ではありませんが「医学図書館をどけんかせんといかん」です。そのためにはユーザーである学生や教職員の皆様方の視点が欠かせません。「そんなの関係ねえ」ではなく図書館宛にご意見、ご要望、ご提案をどしどしお寄せください。よろしくお願いいたします。

